慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	産業組合の鼻祖ライフアイゼンの伝
Sub Title	
Author	矢作, 栄蔵
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.6 (1909. 10) ,p.279(49)- 290(60)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	講演
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19091001-0049

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

上總介忠輝

parti. E dell' ambasciata che hà inuiata alla Stà. di N. S. papa Paolo V, e, delli suoi successi, con altre varie cose di edeficatione, e gusto spirituale de i Lettori. Dedicata alla Stà. di N. S. Dapa Paolo V. Fatta per il Dottor Scipione Amati Romano, Interprete, e Historico dell' Ambasciata. Rom 1615.

(八) Guglielmo Bercheｔ, P. III. Doc. XLIII. 及大日本史料頁二九七ー二九八

(九) Guglielmo Bercheｔ, P. 113 Doc. XLV 及大日本史料頁三三二ー三三三

(十) Guglimo Bercheｔ, P 114. Doc. XLVI 及大日本史料頁三六三ー三六四、

(十一) Richard Cocks, diary, vol I. P 116

(十二) Richa r d Cocks, diary, vol I P 163.

(十三) Richard Cocks, diary. vol. P 192.

(十四) 羅馬市バチカン文書館の文書中にあり、大日本史料頁二九七ー二九八

(十五) 羅馬市バチカン文書館の文書中にあり、大日本史料頁三八八ー三八九歐文材料第百七十九號

(十六) 西班牙セビーヤ市インド文書館の文書中にあり、大日本史料にては頁四一五ー四一六同史料歐文材料は第二百二號にあり

(十七) 同じく西班牙セビーヤ市インド文書館にあり、大日本史料にては頁四三五同史料歐文材料は第二百二號にあり（未完）

産業組合の鼻祖
ライフアイゼンの傳

慶應義塾理財學會に於て
法學博士 矢作榮藏述

ライフアイゼンと申します人は本の上では大人物のやうに見えますが、彼の生活は小さな健全なものであります、千八百十八年の三月卅日夜の十一時にライン河の支流のチーグと云ふ河の邊のハムと云ふ村に生れました、彼は村長の息子でありまして、其三つの年に親が死んだのであります、其ライフアイゼンの如き立派な人物の父にも似合はず親は非常な酒呑でありまして、早くから村長を退職しなければならぬやうに健康を害し、さうして早く死んだのであります、デあるから隨つて家政向も不如意でありました、小學校には行つたが夫れ以上には行けない、そこでサイエンと云ふ村で補習教育を受けました、千八百三十五年に年十七の時砲兵の普通の兵卒として入營致しました、夫れから千八百三十八年に優等の成績を以て砲兵工科學校なるもの即ち東京の砲兵工廠の裏にあります様な、アノ學校に入校した、さうして是は冬丈けある學校で冬七箇月あります、二箇年間其學校に行つて卒業したのであります、千八百四十年に其學校を卒業致しまして千八百四十一年に軍曹としてサイエンに赴任致しました、其のサイエンと云ふ所に居るときにライフアイゼンは當り前の兵隊では無い、當り前の軍曹ではない、將來の有る軍曹でありますからナカ〳〵茫然して居らぬ、忽ちサイエンの青年會に這入つた、其青年會のユーデルヒヤ（喜びの人）に這入つて獨逸の文學を學び、音樂を學なんで非常に頭腦の疎雜な荒つぽい兵士が、大いに優しい又高尚な獨逸文學を多少窺ふ事が出來たのであります、同時に青年會に這入つた御蔭で青年會の世話を此人はした者で

ありますから、是に依つて彼が公共の爲に盡力すると云ふ機會が與へられたのであります、是に依つて段々と彼は公共心を養はれた、夫れからモウ一つサイエンと云ふ所に居る時に、そこから近い所にウヰンニングルと云ふ所へ時々遊びに行つた、そこで青年會ではないのですが、極く小さい社交團體に這入る事が出來た、其ウヰンニングルの醫者でドクトル、アルノルジユと云ふ御醫者は有福でありまして、書生や友達を寄せて葡萄酒を御馳走し、毎度茶話會をやつて呉れたのであります、茲に於ても大に彼が自分等よりも教育の高い小學校の校長或は牧師の娘と云ふやうな村で一番教育のある連中と交際する事が出來、大に彼をして幾らか本を讀み或は幾らか社會全體の有樣と云ふ事に就て高い地位に居る者の考へを聞く事の機會を得せしめたのであります、彼は軍曹でありますが、眼が悪くなつて軍曹が務らないから夫れを止めました、そこで千八百四十一年の末に矢張り其年にコブレンツの政廳の屬官になつた、そこで彼は寧ろ、鷄口となるとも牛尾となるなかれ、と云ふ事を始終言つて居りました、どうも縣の屬官では何等獨立の仕事が出來ないからモウ少し小さい所へやつて呉れと言つて、千八百四十三年にサイエンの郡書記にやられました時に、郡書記でも未だ獨立の仕事が出來ぬからと云ふのでどうかモウ少し小さい所へやつて呉れと云ふ事で御座いました、茲に於て千八百四十六年にワイエルブシユの村長にされました、茲に於て甚だ勤勉な村長として働らきまして、千八百四十八年にフランメルス村長に轉任し千八百五十二年に産業組合の歴史で名高いノイウヰードに近いヘツデルスの村長になつた、其村長として千八百六十五年迄勤めて、村長を辭して後、産業組合の仕事のみに盡力して居りました、さうして千八百八十八年の三月十一日の零時十五分に死んだのであります、此ライフアイゼンが村長としてどう云ふ風であつたかと申しますに、是は後で申しますが彼は非常な純潔な村民に對する愛情と村に對する犧牲

的精神を持つて村長の職を勤めて居つた、さうして極く嚴正な極く眞面目な村長でありました、併ながら是と同時に常識に富んだ村長であつて、餘りに突飛な事をやらない、其先づ大きな點から申しますと、今日で申せば內務省の地方局あたりから模範村長とでも言はれるやうな人でありました、極く村長として眞面目であつたと云ふ例は、自分の勤めて居つた村に窘扶斯が起つた事があります、其時に一家々々窘扶斯患者の家を訪問した、病人の家を見廻ると云ふ事は人の嫌がる事である、其上西洋では牧師が大抵夫れをやります、然るに此村長はさう云ふ烈しい傳染病のある所に訪ねて行つて、夫れの病床にまで訪ねると云ふ事までもやつた、是が爲に窘扶斯に罹つて一年も床に付いた事があります、夫れから又非常に嚴しい村長であると云ふ實例は茲に一つあります、あちらでは新兵が兵隊に出る事が極つた時に、愈々出る前一週間位は酒を呑んで暴ばれます、平常ならば村長の馬車を借りて街道を示威運動をやるのであります、さうして大抵な亂暴は仕徳と云ふ事になつて居つて、其土地の人民も多くは見逃すのであります、誰も逆らはなければ夫れで大概は濟みます、けれ共若しも誰か逆ふと夫れが爲に大亂暴をやつて料理屋の机や器物位は瞬く間に壞して仕舞ふと云ふ位は有兼ない風であります、夫れは餘り好い事ではないが、誰もさう別に咎めて居ない、ライフアイゼンも或時さう云ふ事に會つた、非常に酒屋で亂暴をして居る時にライフアイゼンが其前を通つて、自分の村でさう云ふ亂暴をされてはならんと言つて、早速這入つてステッキを持つて、諸君靜かになさいと、斯うやつた時に大抵ならば皿でも打付けられるのが當前である、所が平常から非常な嚴格な親切な村長である、威嚴と又慈愛と云ふものに富んで居る村長で人望もありますから、皆恐れて居る、イヤ村長が來たなと言つて皆逃げて行つたと云ふ事であります、さうでありますから彼が村長として如何に威嚴を持つて居つたかと云ふ事は夫れでも分るのであります、又

隨分子供らしい村長でありまして、自分の芝居をやつてフランメルスフエルド村で小學校を建る節に寄附金を集めて愈學校が出來た新らしい學校を開く時に小學校の生徒の前へ立つてさうして校長と牧師と一緒に村中を練つて歩いてさうして喜んで居つた、家へ歸つて來て、大汗になつて着物を脫いだ、一生の中是程愉快な事はなかつたと言つて喜んだと云ふ事があります、さうでありますから、ライファイゼンと云ふ人は眞面目であるが同時に又ナカ〳〵子供らしい極く淡白な面白い所もあつた人であります、夫れから又其生活がどう云ふ人であるかと云ふとライファイゼンと云ふ人は質素な人であります、彼は千八百八十五年に死んたが、其時まで村の爲にのみ盡力して居つたから、別段蓄財抔はないので、恩給としては僅か一年に四百四十四ターレル外なかつた、夫れでは到底彼が六人の家内を養ひないのでありますから其中彼は先づ卷煙草の製造をやつて見た、夫れに失敗しまして次ぎに葡萄酒の卸商をやつたのであります、千八百八十年までは其葡萄酒の卸商をやつたので、其後夫れをば他の組合に讓り渡して夫等の仕事を止めて、千八百八十五年に死ぬるまで組合の仕事をしたのであります、晩年には實業の才のある人だからナカ〳〵富を爲しました、けれ共、死ぬまで非常に儉約でありました、どんな風な生活をして居つたかと云ふと先づ食物は朝はコヒーとパン、バタ、夫れ丈けです、正直に白狀しますが、私達或は其外の者でも獨逸に居る時に峰蜜とパン、玉子は二つは食べた、私は身體が大きいから夫れ位ではナカ〳〵追付かない、夫れから又晝には何を食つたか、彼はソップが一抔、肉が一皿、夫れに野菜と馬鈴薯が附いて居る、夫れに御菓子か若しくは果物か何方か一つ、別に酒は呑まんが金曜日丈けは時々舊教信者であるので肉の代りに魚を食ふ、夫れから晩には何を食つたか、晩はパンを切つて其上にバタを塗り肉を張つてそうして又パンを乘せて、サンドヰツチのやうに拵へて夫れを咬つてビールの小瓶を一本呑んで、お仕舞ひ、唯々午後一遍カヽオを一抔呑む、夫れから希臘か匈牙利の葡萄酒を小さい盃で一抔呑む、是丈けであります、是が先づ獨逸でどう云ふ生活であるかと云ふと中の下であります、職工位でも少し可いのは是位な食事はして居ります、ライファイゼンは夫れを一生續けたから如何に儉約であつたかゞ分る、夫れから旅行する時に汽車は何時でも三等です、夫れであつて宿屋へ泊る時は何時でも二流三流の宿屋へ泊つて、第一流の宿屋には泊らない、夫れから田舍へ行つた時にも、小さい町へ行つて、ライファイゼンと宿帳に書くと村中の人民が來て立騷いで仕方が無いから、さう云ふ時には宿帳にライファイゼンと書かない、昔の若い時の字名のミレスと云ふ事を書きました、其位先生は儉約であれば何れも金でも溜めたらう或は資產なのだらうと云ふ想像が付きますが、必ずしもさうでない、彼は非常に細民に同情がありますから商に產業組合の仕事に依つて細民を助けた丈けでなく、私の財を以て直接に彼等を

救つた事もナカ〳〵多いのであります、細民の爲には決して金を惜まなかつた人であります、さうであるが自分の生活は何故さう儉約にしたかと云ふと彼に一つの主義がある、自分の生活の目的は細民を救ふにあると云ふのでどうしても自ら儉約の先例を示して細民と同一生活をして彼等の實際に於ても同情をしなければいかぬ、斯う云ふ點に於て日本の乃木將軍の主義を餘程前の方からライファイゼンは習つたものと見えます

今度申上げたいのはライファイゼンはどう云る動機で又どう云ふ積りで斯う云ふ百姓の爲にやつたかと云ふ事に就きましては少し產業組合のチヨツとした短い、ライファイゼン組合の起りを申さねばならぬ、夫れは彼がワイエルブッシュの村長になつた時の千八百四十六年であります、千八百四十六年から後數年の間獨逸は一體の不作が續いた、そこで非常に食料品が高くなりまして、一體の農民が困難を致したのであります、農民のみならず總て資產の乏しい者は非常に困つたのであり

ます、夫れであるから千八百四十七年ワイエルブツシュに於きまして、村の金のある連中から錢を集めて一つの組合を拵へた、其金で以て遠方から小麥と馬鈴薯を買つて來て、是を細民に賣つてやつたのであります、麥の方は粉に碾いて麵麭にして賣つた、其麵麭は大抵半直段で賣る事が出來たさうであります、斯う云ふ事は何もライファイゼン丈けがやつたのでなくて、其時に獨逸一般にどこでも此市町村の當局者は同樣な事をやつたのであります、ライファイゼンも又さうやつたので、其組合と云ふものはナカ〳〵力のあるものだなと云ふ事を悟つた、其後千八百四十八年にフランメルスフエルドに移つてから後フランメルスフエルド組合を拵へたのであります、夫れは此村の資本の乏しい農民を助ける爲めに扶助組合と云ふものを立てた、其地方には家畜商人が家畜を農民に貸賣をして只儲けようと云ふ惡い風習がありました、夫れが爲に農民が困つて居つた、是を救ふ爲にフランメルスフエルドの富有な人民六十人から

少しづゝ金を出して、其金で牛を買つて來て、さうして元價で以て極く安い利息を計算して五箇年賦で百姓に賣つてやつた、夫れが遂には自分で牛を買つて來て賣つてやると云ふのは至極面倒だから、牛を買うならば勝手に御買ひなさいと云ふので現金で以て農民に貸してやつた、五箇年の年賦で返へすと云ふ事にしたのであります、夫れでフランメルスフエルドで夫れが借金組合の形になつたのであります、其後ライファイゼンはヘッデルスドルフに移りました、フランメルスフエルドの組合は有福な人が他人を助ける組合でありますから、ライファイゼンのやうな非常な熱心家が居る間はどうやら立つて居つたが、ライファイゼンが居なくなつては是は損失はしませぬが、トウ〳〵解散になるやうになつたのであります、さうであるからヘッデルスドルフに移つてからライファイゼンはシュルツエデーリッチの組合を眞似て、成程他人を助ける組合では永く續くまいから今度は實際自分で金を借りると云ふ其人間が借りる組合

として、矢張りシュルッエと同じやうに自助的の組合にしなければならぬと云ふ事を悟つた、そこでシュルツエの組合を眞似まして、フランメルフエルド ヒルフスフエラインと云ふ樣に組織を變へて自助的になつたのであります、直ぐに助けを要する樣な人間が組合員になつて自ら自分を助けると云ふ組合に直した、是が爲にライファイゼンの組合と云ふものは餘程自助的になつた、併しライファイゼン抔はそんなに信用組合に熱心になつて彼等を助ける事になつたのは何故かと申すと彼が村長になつて直接に細民に交際して居つたから、細民の狀態を能く知つて居るのであります、夫れであるから細民には同情がある、夫れと又ライファイゼンは本當の信心者でありますす、そこでチヨッと御斷りしなければなりませぬ、私は耶蘇教信者ではない、ライファイゼンは本當の信者ですが、彼の話をするには耶蘇教の言葉抔も這入つて參りますが、決して私は耶蘇教を勸める趣意でもない、唯々耶蘇教の道德即ちクリスチヤン エシックスと云ふものに學ばねばならぬ事がありまして、少しも我が邦の道德と牴觸しない事がありますから、何も耶蘇教と言つて嫌ふ譯はない、どうか諸君の御許しを願ひます殊に貴方はアカデミカーでありますから、さう云ふ事に異存のある譯はないと思ひます、扨てライファイゼンは斯くの如く細民の爲に同情を表したと云ふのは卽ちライファイゼンが眞の耶蘇教信者であつて、然かも哲學的でない、極く單純な耶蘇教信者でありました、彼は神の存在を能く信じて居る、神が此世を造つたのみならず、今日も生きて居つて、吾々人類を導いて居ると信じて居る、是は成程小學校の教育であつて、其上に砲兵工科學校を二年やつた丈けの教育でありますから、さう云ふ風に簡單に耶蘇教を正直に信ずる事が出來るのであります、是は決してライファイゼンを惡く言ふのでない、寧ろ當然の事であると信ずるのであります、彼は斯う思つて居る「汝の隣人を愛せよ」と云ふのが神の命令である、さうでありますから神の命令に隨ふ

事は人間の義務と考へて居る、彼は唯々神を信ずるとか、汝の隣人を愛せよと云ふ所の道徳丈けでは人間は到底天國の最終の裁判には及第はしない、其隣人を愛すると云ふ事を事實に於て示さなければ、是を實際行はれなければ神の前に最終の裁判に落第する、さうして其者は地獄へ行くと信じて居る、ライフアイゼンは本當に正直に神を信じて居る、だから是をやるのが神に對する義務と信じて居りました、段々産業組合の爲に熱心に盡力して、是が爲に細民が救はれて大に幸福になつた實例を彼が見た、夫れから彼が行つて盡力すれば、ライフアイゼンの足跡の到る所忽ち産業組合が起ると云ふ有樣でありますから遂には自信が出來た、此農業地方の産業組合を作るのが天の使命である、是が己の使命である、己が是を行ふと云ふのが神に對する義務、己れの本分であると信じて仕舞つた、彼が如何に簡單な耶蘇教信者であるかと云ふ事は餘程面白い實例がありまず、或日旅行中に少し教育のある、餘り耶蘇教を信じて居ない紳士の家に招れた事がある、其紳士は金のある人であつて當世流の人で、何んだか耶蘇教と云ふものを輕蔑して居る、さう云ふ人であると云ふ事は分り切つて居るが、ライフアイゼンはナカ〳〵肯かない、そこで食事の前に祈りが必要であるからどうか祈りをして呉れ、みんなして祈りたいと言ふ、所が其家の主人と云ふものは教育もあり極く開けた人だから、なるたけ其話の返事を避けて、さうして別な話ばかりして居つた、成丈け聞流して仕舞はうと考へた、所がナカ〳〵ライフアイゼンは承知しない、是非やつて呉れと云ふ、トウ〳〵そこの妻君が怒つて仕舞つて斯う事を言つて居る「ライフアイゼン樣貴方が私にモウ一遍、私は本當の信心者です、と云ふ事を言つて御覽なされば私はモウ少しも貴君を尊敬する氣がなくなつてしまいます、斯う妻君が言つた、さうするとライフアイゼンは極く落着きつて言ふのに

「夫れは奥樣私はどうも貴方の所謂信心者と云ふ物でありませう、でありますからどうも誠に殘念

でありますけれ共、貴方に尊敬される事を謝絶する」、斯う言ひ切つて仕舞つた、所が主人は賢い人だから其喧嘩を外の話で丸めて仕舞つた、ライフアイゼンも奥樣も氣まずい事をしたもので、是はドッちも悪い、御客を招ねいで御客樣に斯う云ふ失敬な事を言はずとも宜からう、又御客樣に行つて何も自分の信仰を斯う云ふ所で述べる必要も無いさうして信仰しない者に祈りをして呉れと云ふ事を要求するのも間違つて居る、夫れで如何に信心な人であつても今日では私は信者で御座いますと云ふ事を一般分けの席では言はぬ事になつて居るさうであります、夫れは教育ある社會ではやらない、夫れは何故だと云ふと何處の家でも信仰は自由である、銘々色々の信仰であるからして、己の信仰はどうだと言ふと、外の人の信仰に幾らか批評を加へる形になりますから、さう云ふ話は紳士たる者は避くべき所である、唯々ライフアイゼンは村長上り、下士上りだからそんな斟酌はない、自分は本當に信じて居るからして、外の連中はいかぬ夫れは不正であつて神を信じない者は間違つて居ると云ふ考へであるから、平氣でそんな事をやる、併してゝが亦ライフアイゼンの強い所であります、是があるからして彼の事業が成功したのであります、ライフアイゼンと云ふ人は一生の間村長の事務をやつて居る時から組合を始めて、村長を止して常に組合の爲に盡力して死んだ人であります、夫れで朝五時に起きて、少し朝飯を食つて夫れから十六分位庭を散歩する、夫れから机へ座つて手紙を書き、産業組合の通信をやる十一時までやつて夫れから少し休んで飯を食ふ、夫れから獨逸人の慣習でチョッと短く眠むるのである、夫れから産業組合の通信をやる、夫れから漸く新聞を見たり、若くは音樂をやるやうな友達が來ると音樂をやる、夫れから寢て仕舞ふ、夫れで産業組合の爲に盡して居つて一日も寧日がない、殊にライフアイゼンは不幸な人で千八百六十三年に妻君を失ひ又六十八年に再婚したのでありますけれ共、六十三年まで居つた妻君は、常に病

身でありました彼は又眼が悪くて、おまけに僂麻質斯でおまけに神經衰弱でありました、夫で手紙は自分で書けないで自分の息子に書いて貰つた、さう云ふ人であるに拘らず撓まず働いて居つたと云ふのは全く神の助けがあると信じて居つたからである、自分は神の使命を果たすのである、斯う信じて居りまするから倒れるまでやらうと云ふのであります、そこで是は自分のやつて居る事には神の助けがあると信じて居るから常に是をやるのであります、常に働いて居る事が出來たのであります、さうして其眞の耶蘇敎信者であると云ふ證據はナカ〳〵あるのでありまして、子供の敎育の時でも如何に博愛の心に富んで居つたか、自分の子供に一人々々村の一番貧乏なファミリーを捜して是は誰の受持と極めて其息子に其家族の爲を計る事を主にして若しも其ものが助けを要するやうな事があれば其息子は富んで居る人の家へ行つて金を出して貰つて夫れを助ける、さう云ふ風にして子供を初めから慈善をやるやうに養成したのであります、其位であるから博愛慈善の心の強い人であると云ふ事は分るのであります、夫れからライフアイゼンの一番好んで居る耶蘇敎の詩の句は斯う云ふ句であります、是は馬太傳の二十五章にあるさうであります「人間が自分の同業の中の尤も卑賤のもの丶爲に何か盡して呉れたならば夫れを神は自分の爲に汝がやつたものであると云ふ事を認める、」此文句を題目にして常に自分の行爲を極めて行つたのである、であるから斯くの如き事が出來たのであります。

併しライフアイゼンには缺點もあるです、さうは申しますけれ共ライフアイゼンは非常に意思の強い人で自分の仕事は神の使命であると斯う信じて居る、であるから産業組合と云ふものを非常に實際必要であるよりも餘計大切なものと思つて居る、友達の所へ出掛けて、今日は己れは非常な大切な事を話しに來たから氣を落着けて聞ひて呉れと言ふ、何事かと云ふと産業組合の定款の文字がまづくて困る、是をどう云ふ風にしたら宜からう、

君の意見はないかと、斯う言ふから友達は喫驚して仕舞ふ、さう云ふ事が澤山あつたのであります、外の事は知らんが其人の朋友でフアツスベンダーと云ふ人がありまして、之が大學の學生の時にライフアイゼンは之と交通し屢其下宿屋に訪ねて行つて彼が歷史や哲學を讀んで居ると、オイ君何をやつて居る、又哲學か、そんなものは、人間の爲に必要ではない、人間は此信用組合と云ふものさへ知つて居れば是れでモウ人間は救はれると言つた、さう云ふ人だから此書生に大學抔を止して己れの所で信用組合の仕事の爲に盡力しろと言つた事が一度ぢやない、度々であつた、然かも夫れが非常に眞面目であります、さうであるが斯くの如き人でありますから脇目も振らず産業組合の爲に盡す事が出來た、ライフアイゼンと云ふ人は決して辯者ではない、眼が惡くてさうして敎育程度が低いから到底産業組合の演說をやつて知識で人を動かす事は出來ない、併し彼は斯う云ふ事が卽ち農民を救ふ好い一つの道であると信じて居る、其確信が彼の心にあるから隨つて聽衆の心にも移るのであります、羅馬の格言に「確信は辯論を作る」と云ふ事がありますが、ライフアイゼンは産業組合の事を說いて人を動かしたと云ふものは確に彼の人格が是を然らしめたのであります、さうであるから私はライフアイゼンの本を讀んで殊に感じましたのは、人間は決して第二流の人物であると言ふて後悔するに及ばない、決して中央の政治並びに産業の中心に自分の仕事を發見しなくても差支へないのであります、ライフアイゼンの如く敎育の程度の低い夫れから學問上の方から言へば第二流の價を持つて居りましても堅固な確信を持つて居る、夫れから高い理想を持つて居るさうして人類の爲に盡さうと云ふ誠意誠心と云ふもの、是を以て天下に呼號致しますれば片田舍の退職村長と雖も獨逸の農民を救う事が出來るのみならず天下の農民を救う事が出來るのであります、さうでありますから諸君も亦ライフアイゼンより遙に敎育の程度の高い、社會上に地位の高い御方は家に歸つ

て少し御盡力下されば誠に瑣細な力を貸して戴けば我農民を救ふことは容易であらうと考へらるゝのであります。（拍手）（完）

○英國貴族院と自由黨内閣

高橋誠一郎

貴族院は果して庶民院と相並んで立法部の一半を形成し得るやとは蓋し一千八百三十二年以來英國民の頭腦を悶ましめつゝある一大懸案である。バアミンガムから二千餘萬人の民衆が倫敦さして練り出さうとするのを見て、流石のウエリントンも兵士賴む可らず、武力効なきを長嘆し、彼の所謂革命の偉大なる力の前に平服して内閣組織の命を辭し、自ら百餘の保守黨貴族を從へて上院の議場を去り、終に選擧法改正案の上院通過を見るに至つたのは正に英國民全般の意志が明瞭確然と庶民院に於て代表せられた時には直接に人民を代表するとなき貴族院は窮極之に屈從せざる可らずとの慣習を憲法上に殘したものである、然も尙ほ代々の自由黨内閣は往々にして貴族院の强烈なる反對と苦闘せざる可らざるの辛き機會に遭遇した。此が爲めにグレーや、グラッドストーンやキヤンベルバンナーマンや孰れも皆野犬の如くに上院廢止を咆吼して止まなかつた。

所得稅、相續稅及び地租の增徵、大所得附加稅、酒造稅、酒店免許稅、及び自働車稅の新設增徵に據る一千三百五十萬磅の大增稅案の提出は自由黨が絶對的多數を占めつゝある庶民院に於てする議論沸騰して今尙ほ其通過を見ない程であるから、同案が彌よ保守黨の根據たる貴族院に表れた時、同院六百の頭腦は如何に此豫算案を迎ふ可きや、而して自由黨内閣は如何なる態度を以て同院に對す可きや。吾人は多大なる趣味と危惧の眼とを以て同盟國の政界を眺めつゝあるものである。

彼の一千八百三十二年の昔に於ける庶民院對貴族院の軋轢は正しく上層階級對中產階級の爭闘であつた、エヂンボロー勞働倶樂部の旌旗が一千八百三十一年選擧法改正案否決に對する國民的示威運